

神戸市市民福祉調査委員会 介護保険専門分科会

2025 年度 第 2 回介護保険専門分科会

日時：2026 年 3 月 30 日（月）14：00～16：00

場所：三宮研修センター 6 階 605 号室

出席者：大和委員、澤田委員、前田潔委員、松岡委員、久次米委員、松下委員、前田多津子委員、伊賀委員、榎本委員、大竹委員、小野委員、久保委員、酒巻委員、武下委員、宮田委員、伊藤委員、外海委員、森本委員

I 開会

II 定足数の確認

III 局長あいさつ

IV 議題

【審議事項】

第 10 期介護保険事業計画の策定について

○委員

高齢者一般調査において、64 歳以下の同居家族がいる世帯のうち、6 か月以上外出しない等のひきこもり状態にある家族がいる割合は 10.9%となっており、複合的な課題を抱える世帯への支援が急務としているが、その複合的課題とはどのような課題か。また、8050 問題について、新たな身寄りのない高齢者等の包括支援等、社会的孤立に向けた対策をどのように考えているのか。

○事務局

複合的課題とは、例えば経済的困窮に加え、引きこもりやヤングケアラー、親の精神疾患など、単発ではない複数の要因が重なり合っている状態をいう。障害者支援や生活保護など、それぞれ個別の支援制度はあるものの、世帯全体の多様な課題を総合的に捉え、適切に組み合わせて対応していくことが重要であると考えている。

○委員

施設調査は回答率が 40～60%であり、悉皆調査となっていない。ひとつの要因としては、質問内容が細かいからと考えている。全施設が回答することで、具体的な実態が把握でき、特に課題となっている介護人材の不足に対して有効な政策立案に活用できると考える。

○事務局

今回は施設側からの要望も踏まえて、Web 調査を導入した。調査時期が年末の忙しい時期ということも回答率に影響していると考えている。改めて各施設にも聞き取りしながら、引き続き、回答率 100%を目指していく。介護人材の不足は全国的に課題となっている。神戸市としても引き続き人材確保に向けて取り組んでまいりたい。

○委員

高齢者一般調査について、前は約 70%だったが、今回は約半数となっている。回答率が伸びなかった原因を分析して欲しい。また、現場で業務をしている中で、複合的な課題を抱えている方や身寄りのない高齢者が今後かなり増えてくると感じている。神戸市の公的な支援が必要と考えているが、具体的にどのようなものと考えているのか。

○事務局

高齢者一般調査については、神戸市が実施する調査であることを前面に打ち出しているにもかかわらず、「本当に神戸市からの調査なのか」という問い合わせが多く寄せられており、こうした状況から、時代の流れとして、調査への回答に対して慎重になる方が増えている傾向にあると考えている。

様々な課題を抱えている高齢者は増加傾向にあり、あんしんすこやかセンターのみならず、各区保健福祉課、障害・子育て分野も含め、一体的に対応していくべきであると認識しており、全市的な対応を検討していきたいと考えている。

○委員

高齢者の実態調査について、地域ごとの差を把握できているのか。また、そうした地域ごとの課題を地域の方々にフィードバックする仕組みは考えているのか。

○事務局

地域ごとの課題や状況を踏まえて計画策定する必要があると考えている。今回の調査結果を要介護度別や地域別にクロス集計することで分析していく。

実態調査について、日常生活圏域ごとの傾向を分析し、あんしんすこやかセンターに地域診断の資料としてフィードバックしている。地域課題の把握や啓発すべき事項の把握等、あんしんすこやかセンターの活動に活かしている。

○委員

特別養護老人ホームでは、待機者が多くすぐには入れない施設もあれば、空きがある施設もある。空きのある施設で待機者を受け入れるなど、施設間の調整はできないのか。また、施設の空き状況などの情報は、あんしんすこやかセンターにも共有され、入居希望者への適切な案内につながっているのか。

○事務局

市として待機者数は把握しているが、あくまでも調査時点の待機者数になる。すでに別施設に入所されている方もいらっしゃる。長期間待機されて入所できない方は少ない、と認識している。

また、施設によって待機状況に差があり、医療ケアの必要性などにより、施設とのマッチングが難しいケースもあると認識している。

空き情報については、各施設からあんしんすこやかセンターへ提供されており、入所希望者への案内にも活用されていると聞いている。ただし、情報は日々変動するため、具体的な空き状況については、各施設へ直接問い合わせていただく必要がある。

○委員

地域で集いの場を運営している方から、参加者や運営者の高齢化により活動継続が難しくなっているという声があった。若い世代へ引き継ぎたいと思っても、高齢者中心の場に若い人が入りづらく、定着しにくい現状がある。実際に若い世代が運営に関わるには、参加者募集や運営方法などの支援が必要だと感じている。そのため、行政として、若い世代が参加しやすくなる仕組みやサポートについて検討してほしい。

○事務局

地域の集いの場における担い手不足や高齢化による運営継続の難しさについては、行政としても認識している。世代交代や新たな担い手の参入は課題であるが、活動したい人に対しては、あんしんすこやかセンターや社会福祉協議会の生活支援コーディネーターが、運営方法や活用できる制度、他地域の事例紹介などの支援を行っている。

また、小学校区・中学校区単位の地域ケア会議では、地域関係者や介護事業者などが集まり、担い手不足への対応について協議しており、学生や若い世代への啓発・参加促進につなげる取り組みも進められている。すぐに解決できる課題ではないが、話し合いの場を通じて、継続的な活動につなげていきたいと考えている。

○委員

議論を踏まえまして、事務局の原案のとおり、承認とさせていただいてもよろしいか。

(委員承認)

【報告事項】

地域ケア会議について

○委員

毎年、認知症サポーター養成講座が開催され、多数のサポーターが養成されているが、実際の活動が目に見えない。日常的に認知症の方をサポーターする活動に繋がっていないので、神戸市としても具体的な対応をお願いしたい。

○事務局

認知症サポーターは、認知症の方への接し方や認知症に関する知識を習得し、地域の中でそれぞれできる範囲でご活躍いただくと考えている。また、ボランティアに参加して活動したいという方には、社会福祉協議会のボランティアセンターを案内し、具体的な活動につながる情報提供を行っている。今後も、認知症サポーターが習得した知識を生かし、さまざまな形で活動いただけるよう、引き続き取り組んでまいりたい。

V その他（全体を通じた意見）

○委員

介護報酬の動向を踏まえつつ、ケア労働者の賃上げに引き続き努めていただきたい。また、介護保険料については、介護サービスを利用していない人も多い中で保険料が高いとの声があることから、保険料の引上げを抑え、可能であれば引下げの方向で検討してほしい。

○委員

ケアマネジャーの立場から、利用者にとって必要なサービスを見極め、無駄や過剰なサービスを避けながら適切な支援につなげるよう努めている。高齢者や要介護認定者の増加に伴い、介護保険料の上昇を実感しており、第1号被保険者の負担が大きくなっている。国への助成制度の要望などを含め、介護保険料の負担軽減を検討してほしい。

VI 閉会

○委員

では、以上で2025年度第2回介護保険専門分科会を終了する。